

かんとくのことば  
—体験活動との関連を図った指導—

学校名 ( 坂町立横浜小学校 )

- 1 学年 第3学年
- 2 主題名 心のこもった礼儀【2-(1) 礼儀】
- 3 ねらい 監督の言葉を聞いてヘルメットを並べる健人の思いを考えることを通して、礼儀でつながる心の温かさを知り、誰に対しても真心をもって接する態度を育てる。
- 4 資料名 かんとくのことば (「かがやけみらい」学校図書 一部改作)
- 5 授業の展開例

	学習活動	主な発問と予想される児童の反応	留意点
導 入	1 価値に関わる体験を引き出す。	○挨拶をする時、どんなことに気をつけていますか。 ・聞こえる声です。 ・立ち止まってする。 ・礼をする。	○自分たちがどんな挨拶を心がけているかを確認することで、礼儀について意識づける。 ○「礼節週間」の時のことを想起させる。
展 開	2 資料を読んで話し合う。	○監督に「座ったまま渡すとは、何事だ。」と言われた時、健人はどう思ったでしょう。 ・何がいけなかったんだろう。 ・なぜ怒られたのだろう。  ○古田先生と監督があやまり合っている姿を見て、健人はどんなことを思ったでしょう。 ・先生に座ったまま渡すのは失礼だった。 ・自分がいけなかったのに、なぜ先生と監督があやまっているのかな。  ◎ヘルメットを並べながら、健人はじっとどんなことを考えているでしょう。 ・お世話になっているお母さんたちにも、挨拶すればよかった。 ・感謝の気持ちをこめて挨拶をしよう。 ・誰にでも気持ちの良い挨拶をしよう。	○健人はなぜ監督に怒られているのかわかっていないことをおさえる。  ○監督や古田先生が深く頭を下げていることが自分の行動を考えるきっかけになっていることをとらえさせる。  ○吹き出しのあるワークシートを活用し、健人の気持ちを考えさせる。それを交流する中で、形だけの挨拶ではなく、だれに対しても真心ある行動をとることの気持ちよさや礼儀正しいことの大切さに気づかせる。
	3 生活を振り返る。	○みんながしている挨拶はどうだったでしょう。 ・心をこめて挨拶している。 ・挨拶をしている時、相手の気持ちを考えていなかった。 ・これからは気持ちをこめて挨拶しよう。	○これまでの経験を振り返りながら、相手に対する気持ちをこめた礼儀のよさについて考えさせる。
終 末	4 教師の説話を聞く。(写真, 児童の作文)	○気持ちが伝わってきた挨拶や心のこもった姿を紹介します。	○自分たちも普段から礼儀正しい行動をしていることに気づかせ、継続していきたい思いを持たせる。

# 活用に生かすための実践報告

坂町立坂中学校区

## 1 地域や児童の実態

坂町は、昨年度より「礼節」を重んじ、家庭や地域とともに進める道徳教育に取り組んでいる。その成果として校内においては、気持ちのよい挨拶をしたり、5秒礼や語先後礼を実践したりする姿が見られる。

しかし、学校評価や保護者の声を聞くと、地域では十分に実践できていない実態が見られる。学校生活においては、互いの礼節について認め合えるほど高まっている児童の意識も、校外の活動場面では、指導されないといけない実態が見られる。

## 2 教材開発及び指導過程の工夫

坂町4校で行った「礼節週間」の際に、個人のためを毎日決めさせ、振り返りをさせた。導入では、その「礼節週間」での自分の挨拶の様子を想起させた。

中心発問の場面では、主人公の挿し絵入りの吹き出しを使用し、一人一人じっくり考えさせた後、話し合いを行った。

また、展開後段では、「心のノート」を活用しこれからの自分のためを設定させた。その後、継続して1週間毎に振り返りを行い、実践化を図った。

終末では、礼儀正しい児童の様子の写真を見せ、価値づけることで、礼儀への意識が高まるように工夫した。

## 3 発問の工夫

「ヘルメットを並べながら、健人はじっと、どんなことを考えているでしょう。」という中心発問に対して、ワークシートに自分の考えを書かせた。話し合いの中で「お母さんたちにも挨拶をした方が良かった。」という意見を取り上げ、「なぜ、お母さんたちにも挨拶をしなくてはいけないのか。」という補助発問を行い、誰にでも気持ちのよい挨拶をしたいという気持ちをもた

せたり、心をこめた挨拶で心が通じ合うことに気付かせたりするようにした。

## 4 児童の反応

- ・ぼくが監督にしか挨拶をしなかったので、監督は悲しいのかな。
- ・監督には挨拶したのに、お母さんたちに言わないなんておかしかったな。
- ・お母さんたちは、お手伝いをしてくれているのに、挨拶しなきゃいけない。
- ・ぼくのせいで、先生や監督があやまらなくちゃいけないようになってしまった。明日から誰にでもきちんと行儀のよい挨拶をしよう。
- ・今度から自分で他の人にも、大きな声で気持ちのよい挨拶を試みようかな。
- ・「ありがとうございます。」という気持ちをこめて、挨拶をすると、心が通じ合って、相手も自分も気持ちがいい。

## 5 成果と課題

今年度は、4校揃って「礼節週間」に取り組み、教職員、保護者、小中学校の児童生徒と一緒に挨拶運動をすることで、教職員の意識向上だけでなく、地域で「ともに育てる」意識も向上した。

児童はこの授業を通して、「礼節週間」が終わった後も、自分でためを決めて、振り返りを行ったり、気持ちを込めた言葉がけや行動を進んで行ったりしている。礼儀を身に付けることが、気持ちのよい生活につながることを感じている児童も見られる。このことは、道徳の時間と体験活動との関連を図り、継続して取り組んだ成果と考える。

今後も、道徳の時間で実践意欲を高めるとともに、意欲の高まりを行動に移すきっかけとなるような体験活動を設定し、適切な評価を行うことで道徳の実践力を高めていきたい。